

【 日 出 町 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

1 調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

小学校 6年生 国語	平均正答率		観点別正答率							
	知識	活用	A：主として知識				B：主として活用			
			話す聞く 能力	書く 能力	読む 能力	言語につい ての知識 理解技能	国語への 関心・意欲 態度	話す・聞く 能力	書く 能力	読む 能力
全国	70.7	54.7	90.8	73.8	74.0	67.0	33.2	64.6	45.6	50.8
県	72.0	56.0	91.4	74.8	74.0	68.3	35.8	65.9	47.6	53.6
日出町	69.0	56.0	88.2	75.7	70.6	65.8	36.8	65.6	47.7	52.8

○平均正答率は、活用は全国を上回っている。知識が全国を下回っている。

○観点別正答率は、A問題では「書く能力」以外は、全ての観点で全国を下回っている。B問題では全ての観点で、全国を上回っている。

○問題の、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができるか」を問う問題では、正答率が66.2%（全国74.1%）と低く、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面に着目して読むことに課題がある。

○A問題の、「主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるか」を問う問題でも、正答率が25.4%（全国35.8%）と低く、主語と述語との関係に注意しながら、表現することに課題がある。

○正答率が60%未満の児童の割合は、A問題では30.6%（全国30.9%）、B問題では、49.7%（全国49.4%）であり、全国とあまり差異はないものの、下位層の割合が比較的高い。

小学校：算数

小学校 6年生 算数	平均正答率		観点別正答率				
	知識	活用	A：主として知識		B：主として活用		
			数量や図形に ついての技能	数量や図形に ついての知識 理解	数学的な 考え方	数量や図形 についての 技能	数量や図形に ついての知 識・理解
全国	63.5	51.5	63.0	63.8	49.2		71.7
県	65.0	52.0	65.7	65.1	49.8		75.1
日出町	66.0	52.0	67.5	64.5	50.1		69.5

○平均正答率は、知識、活用ともに全国を上回っている。

- 観点別正答率は、A問題は全国を全ての観点で上回っている。B問題は、「数量や図形についての知識・理解」を除いて、全ての観点で全国を正答率を上回っている。
- B問題では、「メモの情報とグラフを関連付け、どのようなことに着目して書かれたているのかを書く」問題では正答率が、17.3%（全国20.9%）で全国と比べても低く、言葉や数を使って書く記述式の問題に課題が見られる。
- 正答率が60%未満の児童の割合は、A問題では39.0%（全国43.5%）、B問題では、53.3%（全国53.3%）であり、下位層の割合が4割～5割を占める。

小学校：理科

小学校 6年生 理科	平均 正答率	観点別正答率			
		自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な 思考・表現	観察・実験の技能	自然事象への知識 理解
全国	60.3	82.1	54.1	71.1	81.5
県	63.0	82.9	56.6	72.3	88.7
日出町	63.0	85.7	55.7	77.2	87.9

- 平均正答率は、全国を上回っている。
- 観点別正答率は、全ての観点で全国を上回っている。
- 「実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する」問題では、正答率が17.3%（全国20.2%）と低く、考えのわけを記述することに課題がある。
- 正答率が60%未満の児童の割合は、38.9%（全国46.2%）と全国と比較すると低い。

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

1 調査結果の分析

中学校：国語

中学校 3年生 国語	平均正答率		観点別正答率								
	知識	活用	A：主として知識				B：主として活用				
			話す 聞く 能力	書く能 力	読む能 力	言語につ いての知識 理解技能	国語への 関心・意欲 態度	話す聞 く 能力	書く能 力	読む能 力	言語につ いての知識 理解技能
全国	76.1	61.2	75.2	73.9	76.7	76.5	50.3	76.6	31.3	53.5	49.2
県	77.0	62.0	75.2	74.8	77.1	77.2	51.1	76.3	32.4	54.1	52.7
日出町	78.0	61.0	77.3	77.0	77.4	78.4	50.5	76.1	32.0	53.9	56

- 平均正答率は、知識は全国を上回っている。活用は、全国をやや下回っている。

- 観点別正答率は、A問題では、全ての観点において全国を上回っている。またB問題では「話す・聞く能力」を除いて、全ての観点で全国を上回っている。
- B問題の、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができるか」では、正答率が7.9%（全国13.9%）で、文章の内容を的確に捉えてまとめることに課題が見られる。
- 正答率が60%未満の生徒の割合は、A問題では13.7%（全国15.7%）、B問題では、42.6%（全国45.1%）であり、全国と比較して割合はやや低い。

中学校：数学

中学校	平均正答率		観点別正答率				
	知識	活用	A：主として知識		B：主として活用		
3年生 数学			数学的な 技能	数量や図形 についての 知識・理解	数学的な 見方や考え 方	数学的な 技能	数量や図形に ついての知 識・理解
全国	66.1	46.9	70.4	63.3	45.1	51.3	
県	66.0	45.0	70.9	63.5	43.6	49.6	
日出町	69.0	47.0	73.3	66.5	45.0	50.8	

- 平均正答率は、知識、活用ともに全国を上回っている。
- 観点別正答率では、B問題において「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」において全国の正答率をやや下回っている。
- B問題では「与えられた情報から必要な情報を整理し、的確に処理すること」また、「事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて説明できるようにする」の正答率がそれぞれ13.6%（全国16%）、12.1%（全国10.4%）で、低い。数学的な表現を用いた説明の仕方について、指導方法を工夫する必要がある。
- 正答率が60%未満の生徒の割合は、A問題では30.7%（全国35.8%）、B問題では、70%（全国67.4%）であり、活用問題に対する対策が必要である。

中学校：理科

中学校 3年生 理科	平均 正答率	観点別正答率			
		自然事象への関 心・意欲・態度	科学的な 思考・表現	観察・実験の技能	自然事象への知識 理解
全国	66.1	74.0	64.9	67.0	68.7
県	67.0	73.1	64.8	69.8	70.4
日出町	67.0	73.6	65.1	70.9	69.5

- 平均正答率は、全国を上回っている。
- 観点別正答率では、「自然現象への関心・意欲・態度」でやや全国を下回っている。
- 「問題解決の知識と技能を活用して、自然の事物・現象の原因を指摘する」問題において、正答率が19.6%（全国19.4%）と低い。
- 正答率が60%未満の生徒の割合は、34.8%（全国36.4%）で、全国と比較すると割合は、やや低い。

2 具体的な改善方法

学校全体で取り組む授業改善

- 各学校の授業改善における検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらP D C Aサイクルを機能させる。
- 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の学習や、付けたい力を明確にした言語活動を重視しながら、学び方を育む学習活動を充実させる。
- 全教員による互見授業を実践・推進する。各学校の取組指標に基づいた授業を行う。一人が年間5回以上は行う。
- 授業観察チェックシートを活用し、観察後は、校長、教頭で、必ずシートを基にした指導を行う。
- 資料活用力ををつけるために、教科を問わずグラフ等からわかることを読み取る時間の保証をする。また、総合的な学習の時間において、実践的な体験（資料の選択、資料を基にした発表、質問）を通して力を身に付ける。
- 活用問題を積極的に扱い、「何が書かれているのか（情報の整理）」「何を問われているか」を読み取ったり、答えの根拠を筋道立てて説明したりする場面を、日ごろの授業の中で意図的に取り入れていく。
- 指導過程の中で意図的、継続的に自分の考えをまとめ、発表させる場を設け、表現力を育成する。まとめにおいては、学習した用語や事柄を使いまとめるなどの方法を取り入れる。

習熟の程度に応じた指導の充実

- 小学校では4, 5, 6年生の算数、中学校では学校の実態に合わせて、数学、英語で実施する。
- 補充学習については、小学校では放課後の時間を計画的に設定し、中学校では、放課後、職員室前の机や少人数教室等を利用した取組を実施する。
- 授業における評価基準を明確にし、個別の指導や支援方法を工夫する。また授業の終わりの「ふりかえり」で、付けたい力が身についているかを確認し、必要に応じて個別指導を行う。

学力向上支援教員等の授業から学ぶ

- 学力向上支援教員（小学校；国語、理科 中学校；数学）、習熟度別指導推進教員（小学校；算数 中学校；英語）の公開授業に、一人最低1回は参加し、学んだことを各自の実践に生かす。
 - ・公開授業の事後研には、原則参加し、実践の交流を図る。
 - ・指導案、指導計画、ワークシート等作成したものは、町の共通ホルダーで共有し、活用出来るようにする。

中学校教科部会の充実を行う

- 部会内での授業研究を実施し、授業改善へ向けた取組を推進する。
- 日出町学力向上推進委員会ワーキンググループ会議において、学力調査について分析・考察した結果や対策について教科部会へ還元する。

町標準学力調査を活用する

- 12月末に、小学校4年生～中学校2年生全員を対象に実施する。（小学校は、国語・算数・理科）中学校は、国語・数学・理科・英語・社会）
- 調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにする。

家庭、地域との連携

- 学習ボランティアの活用（小学校）
 - ・授業中のサポート
 - ・月一回の放課後補充指導 等
- 規則正しい生活習慣づくりのための「10（11）—7—1運動」を指導・啓発する。
- 家庭での読書を生徒会や児童会の図書委員会等と連携しながら推進し、読書習慣を確立する。

【 日 出 町 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか。」の問いに、「そう思う」と答えた児童は33.8%で、全国平均より4.7ポイント高い。
- 「将来の夢や目標をもっていますか。」の問いに、「そう思う」と答えた児童が75.4%で全国平均より7.2ポイント高い。
- 「一日あたりどのくらい読書をしますか。」に対し、全くしないと回答した児童の割合は、17.3%全国平均と比べ、1.4ポイント低い。
- 「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の問いに肯定的に答えた児童は、全国と比較して、0.1ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「朝食を毎日食べていますか。」に対して93.4%の児童が肯定的回答をしている。
- 自分にはよいところがあると肯定的に思っている児童は75.7%で、全国平均より8.3P低い。
- 先生はあなたのよいところを認めてくれていると肯定的に思っている児童は、80.9%で全国平均より4.4P低い。

生徒質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか。」の問いに、肯定的に答えた生徒の割合は、78.5%で、全国平均に比べ4.7ポイント高い。
- 「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」の問いに、肯定的に答えた生徒の割合は、78.9%で、全国平均と比べ2.6ポイント高い。
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」の問いに、45.3%の生徒が肯定的回答をしており、全国平均と比較すると、8.5ポイント低い。
- 「数学（理科）の勉強は好きですか。」「数学（理科）の授業はよく分かりますか。」の2つに対し、肯定的回答はどちらも全国平均を下回っており、相関関係が見られる。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「自分には、よいところがあると思いますか。」の問いに、肯定的な回答をした生徒は、76.2%と全国平均より2.6ポイント低い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに肯定的な回答をした生徒は、98.1%で全国平均より2.6ポイント高い。
- 「朝食を毎日食べていますか。」に対し、95.1%の生徒が肯定的回答をしており、全国平均と比較し、3.2ポイント高い。

2 日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか。」の問いに対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中ともに全国平均を上回っており、好ましい傾向にある。今後も児童生徒の主体的な学びを促すような課題設定や、問題解決的な展開の授業づくり等に取り組んでいく必要がある。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が高いことから、グループやペア活動など対話的な学習を授業の中に積極的に取り入れている学校がほとんどであることがわかる。しかし、何のために対話をするのか（目的）や何を話し合わせるのか（話し合いの必然性）など、授業のねらいと指導の意図をはっきりさせて取り組む必要がある。
- 家庭での学習時間は、小・中ともに「一日に1時間以上している」と回答した児童生徒の割合は9割を超え、全国平均と比べても高く、家庭学習の習慣化ができています。今後は、授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、評価をきちんと行いながら、基礎基本の定着を図ることが重要である。
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。」について肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較して低い。総合的な学習の時間を中心として、各教科の学習においても、資料等を使い、伝える相手を意識しながら、自分の考えを整理して発表する機会を設定することが大切である。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 朝食の摂取率は、小・中ともに全国平均と比較しても高く、基本的な生活習慣の確立のためにも*「10（11）－7－1運動」の推進を今後もすすめていく。
- 「一日にテレビ、ゲーム合わせて2時間以内」の推進も行ってきているが、中学生で全く読書をしないと回答した生徒の割合が4割を超えていることから、学校図書館の活用とともに、「家読の日」など家庭と連携した取り組みを進めていく必要がある。
- 「自分にはよいところがあると思っていますか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国平均と比べ低い。支持的風土の学級づくりを基盤としながら、授業はもちろん、特別活動など学校の教育活動全体の中で、生徒指導の三機能を生かした取組の充実が必要である。
また、一人一人の学習状況を把握しながら、習熟の程度に応じた指導の手立てを工夫するなど、「わかる、できる授業」の取組も重要である。

※午後10時（中学生は11時）までに寝て、午前7時までに起き、茶碗一杯（食パン一枚）の朝ご飯を食べようという運動。

【 日 出 町 】

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか。」に対し、全ての学校において、肯定的な回答をしている。授業の初めに目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れ、課題に対する自分の考えをもたせながら学習の展開を図り、最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるという一時間完結型の授業が定着していることが窺える。
- 児童の姿に関するアンケート調査や各種学力調査結果等のデータに基づき、教育課程が実施、評価、改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校がほとんどである。学力調査結果の学校全体で成果や課題を共有するとともに、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用している。
- 全ての学校において、保護者や地域の人が、学校の美化、登下校の見守り、学習支援等様々な形で、参加している。
- ICT（コンピューター、プロジェクター、電子黒板等）を活用する学習活動について、取組が消極的である。
- 「近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する目標設定など共通の取組を行っている。」と肯定的に答えた学校は1校のみで、県平均・国平均より肯定率が低い。

中学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 全ての学校において、学年・学級で生徒とともにめざす授業像を共有し、目標を立て、実行することで、学習規律の徹底が維持できている。
- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか。」に対し、全ての学校において、肯定的な回答をしている。授業の初めに目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れ、課題に対する自分の考えをもたせながら学習の展開を図り、最後に学習したことを振り返る活動を取り入れるという一時間完結型の授業が定着していることが窺える。
- 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行っている全ての学校が回答しており、8割の生徒も認めてくれていると肯定的に答えている。
- 保護者に対して、生徒の家庭学習を促すような取組が、全ての学校においてできている。また、家庭学習の与え方について、教職員での共通理解も図られている。
- 授業におけるICTの活用や、習熟の程度に応じた少人数指導は、学校によって取組に違いが見られる。
- 近隣等の小学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流は行われているが、教育目標を共有するまでの取組は行われていない。

2 日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 小・中学校ともに、授業中の私語が少なく、落ち着いて学習に取り組めており、学力向上を支える基盤である、学習規律が徹底できている。また、児童生徒が自分の考えを安心して言える支持的風土の学級づくりに関しても、生徒指導の三機能を生かしながら、授業実践に取り組んでいく。
- 「課題の解決に対して、自分で考え、自分から取り組んでいる。」と小・中学校ともに肯定的な回答であったが、さらに児童生徒の主体的な学習を促すために、問題解決的な展開の授業や教科のねらいに適した言語活動の設定について、校内研究会等の機会を通して、教師一人一人の授業改善や授業力アップを図る。
- 「日出町学力向上推進委員会」を年3回実施し、各校の学力向上に係る取組状況や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行う。各教科のワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「全教員が取り組みやすく、効果的」な授業改善の方法を考え、推進委員会で提案し、町内全体で取り組んでいく。
- 各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、小・中学校の取組に関する意見交流を行い、共通の課題に対しては、連携して取組を進めていく。
- 習熟の程度に応じた指導の徹底を図るため、単元における評価規準を明確にするとともに、ねらいに達しない児童生徒への具体的な手立てを準備し、適切な支援を行うなど指導方法の工夫・改善を図る。
- 計画的にICTの環境整備を行うとともに、ICTスマートデザイナーの公開授業などを通して、ICTを活用した授業実践の取組を町内に広げていく。
- 保護者との連携を図るため、「家庭学習の手引き」の充実・活用促進に引き続き取り組む。